

平成18年3月期
決算説明会資料

2006年5月16日

株式会社アドバンス・メディア

アジェンダ

決算概要

P.3

事業説明

P.13

参考資料

P.35

決算概要

連結業績概況

(単位:百万円)

	実績		公表値(2月15日)		差異額 (増減率)	
	金額	(百分比)	金額	(百分比)		
売上高	2,566	(100.0%)	2,500	(100.0%)	66	(2.6%)
営業利益	107	(4.2%)		(0.0%)	-	
経常利益	59	(2.3%)	25	(1.0%)	84	-
当期純利益	131	(5.1%)	20	(0.8%)	151	-

●連結業績につきましては、連結子会社であるエムシーツー(株)の順調な推移もあり、売上高は概ね予想通りですが、連結子会社である(株)ボイスドメインサービスの事業立ち上がりが予想よりも大幅に遅れたことにより、同社の初期投資コストを吸収しきれなかったこと、及び持分法適用関連会社Multimodal Technologies, Inc. が経常損失を計上したことで、経常損失を計上。

●また、エムシーツー(株)の単体利益が予想よりも上まわったことに伴う税負担増もあり、当期純損失を計上。

連結B / Sの概況

(単位:百万円)	
科 目	2005年度
流 動 資 産	4,090
現金及び預金	2,848
受取手形、売掛金	1,062
その他流動資産	203
貸倒引当金	23
固 定 資 産	2,731
有形固定資産	70
無形固定資産	2,393
投資その他の資産	267
資 産 合 計	6,822
科 目	2005年度
流 動 負 債	1,380
買掛金	313
短期借入金	400
未払金	112
その他流動負債	555
少数持株持分	44
資本合計	5,397
負債、少数持株持分及び資本合計	6,822

連結2006年度業績予想

	(単位:百万円)	
	中間 金額	通期 金額
売上高	1,490	3,780
経常利益	230	70
当期純利益	290	50

- 中間期はボイスドメインサービス社の売上高がほとんど見込めないこと、アドバンスト・メディアの売上高も下期の比率が大きいこと、持分法適用関連会社 Multimodal Technologies, Inc. が経常損失を計上することで、連結は経常損失を計上する予定。
- 通期は、経常利益を計上する予定であるが、エムシーツー(株)の単体利益に伴う税負担増もあり、当期純損失を計上する予定。

単体業績概況

●公表値(2月15日)との比較

(単位:百万円)

	実績		公表値		差異額 (増減率)
	金額	(百分比)	金額	(百分比)	
売上高	1,946	(100.0%)	2,000	(100.0%)	54 (2.7%)
営業利益	116	(6.0%)	-		-
経常利益	160	(8.2%)	130	(6.5%)	30 (23.1%)
当期純利益	154	(7.9%)	130	(6.5%)	24 (18.5%)

●前年度比較

(単位:百万円)

	当期(2005年度)		前期(2004年度)		差異額 (増減率)
	金額	(百分比)	金額	(百分比)	
売上高	1,946	(100.0%)	1,498	(100.0%)	448 (29.9%)
営業利益	116	(6.0%)	90	(6.0%)	26 (28.9%)
経常利益	160	(8.2%)	70	(4.7%)	90 (128.6%)
当期純利益	154	(7.9%)	68	(4.5%)	86 (126.5%)

売上高は約30%、経常利益は約130%増。

単体事業別売上高の推移

(単位:百万円)

	2003年度		2004年度		2005年度	
	金額	(百分比)	金額	(百分比)	金額	(百分比)
売上高	887	(100.0%)	1,498	(100.0%)	1,946	(100.0%)
(セグメント別売上高)						
ソリューションサポート	659	(74.3%)	719	(48.0%)	855	(43.9%)
ライセンス	226	(25.5%)	776	(51.8%)	1,082	(55.6%)
サービス	1	(0.1%)	2	(0.1%)	7	(0.4%)

- 受託開発のソリューションサポート事業の売上高が増加しつつも、比率は低下。
- ライセンス事業は売上、比率ともに増加し、ソリューションサポートからライセンスへ売上のシフトが進んでいる。
- なお2005年度セグメント別売上高は推定値で、監査法人の精査を受けておりません。

経常利益の推移

(単位:百万円)					
	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
	金額	金額	金額	金額	金額
経常利益	544	592	26	70	160
経常利益率	176.8%	131.1%	2.9%	4.6%	8.2%

- 単体の経常利益は年度ごとにほぼ倍々で増加、経常利益率も2倍弱で増加。

単体B / Sの概況

(単位:百万円)

科 目	2005年度	2004年度	増減	主 な 増 減 理 由
流 動 資 産	3,329	1,908	1,421	
現金及び預金	2,296	1,073	1,223	
受取手形、売掛金	841	774	67	
貸倒引当金	10	10	0	
その他流動資産	202	71	131	
固 定 資 産	2,659	925	1,734	
有形固定資産	60	54	6	
無形固定資産	756	565	191	
投資その他の資産	1,842	305	1,537	関係会社株式増加のため
資 産 合 計	5,989	2,834	3,155	
科 目	2005年度	2004年度	増減	主 な 増 減 理 由
流 動 負 債	741	766	25	
買掛金	155	173	18	
短期借入金	400	450	50	
未払金	88	48	40	
その他流動負債	98	95	3	
固 定 負 債	0	14	14	
資 本 合 計	5,247	2,053	3,194	
負債・資本等合計	5,989	2,834	3,155	

単体2006年度業績予想

	(単位:百万円)	
	中間 金額	通期 金額
売上高	800	2,600
経常利益	180	180
当期純利益	180	180

- 中間期は下期の売上向上のため、販売管理費が先行投資的にかかること、販売パートナーの稼働が下期に本格化すること、ソリューションサポート（受託開発）の比率が2006年度も高いことから経常赤字を計上する予定。
- 通期は、下期のライセンス販売の増加とソリューションサポートの売上確定の増加により、経常利益を180百万円計上する予定。

その他

●設備投資実施額(単体)

有形 25百万円 (2004年度 40 百万円)

無形 395百万円 (2004年度 314 百万円)

●減価償却費(単体)

有形 17百万円 (2004年度 11百万円)

無形 233百万円 (2004年度 117百万円)

●従業員数(2006年3月末現在)

連結 86名(ほか、アルバイト平均156名)

単体 79名(ほか、アルバイト平均23名) (2004年度 63名、アルバイト平均 20名)

事業説明

事業分野紹介



●医療

放射線 / 病理画像レポート、
電子カルテ(大病院、診療所、
歯科クリニック)、調剤・薬剤
AmiVoice EX

●ゲーム/エンタテインメント/教育



ゲームソフト、ロボット
教育ソフト
AmiVoice CALL



●CTI

次世代コールセンターソリューション

- ・ AmiVoice CallScriber, AmiVoice Assist,
AmiVoice Interactive Responder

●ビジネスソリューション



- ・ AmiVoice Reporter,
AmiVoice Dialer,
AmiReception

AmiVoice BizMail

- ・ 音声対話I/F
業務アプリ



●議事録

- ・ 議会議事録
AmiVoice Rewriter

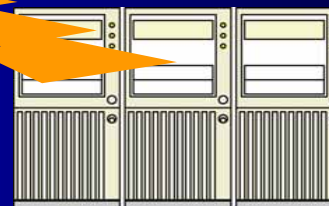
- ・ 音声対応HP、
・ バリアフリー

人が公共施設や家庭で
「簡単に」「便利に」必要な
公けの情報を入手できる
インフラ



●モバイル

携帯DSRによるモバイルサービス
(いつでも、どこでも、だれでもが
「便利」「役に立つ」「ありがたい」)



下期のトピックス

1. IBEとアドバンスト・メディアが、音声認識を活用した製品開発分野で提携
～映像・音声・文字情報連動の議事録システムで効果的かつ正確な情報伝達を実現～(10月)
2. 携帯電話向け声紋認証システム *AmiVoice® Mobile Verification*を開発、ASP型のサービスを10月19日より開始(10月)
3. アドバンスト・メディア子会社、ボイスドメインサービスが携帯電話向け音声認識サービスを開始(11月)
4. アドバンスト・メディアとドリーム・アーツ、音声認識を活用した製品開発で技術提携(11月)
～ドリーム・アーツのWebアプリケーションINSUITE®、ひびき®の利便性が、*AmiVoice®* の音声入力、音声操作により格段に向上～
5. ボイスドメインサービス社、検索連動型広告配信サービスでサーチテリア社と業務提携(11月)
6. 医療従事者向け業界最高水準音声入力システム 医療メールパッケージを市場投入(11月)
～米国シカゴ開催の北米放射線学会で発表-2005年11月より予約開始～
7. アドバンスト・メディア、ネオジャパンのデスクネットに音声認識技術を提供(12月)
～グループウェアに*AmiVoice®*採用で業務提携～

下期のトピックス

8. アドバンスド・メディアとアスキーソリューションズ 医療向け音声認識分野で業務提携(12月)
～ 電子カルテ向け音声入力システム *AmiVoice® Ex Clinic*をアスキーソリューションズで販売開始～
9. 世界最高性能の音声認識自動受付システム *AmiReception®*、新機能を搭載しバージョンアップ(1月)
～ ネットワーク監視機能・セキュリティ機能を強化 個人情報管理、受付業務費用対効果向上のニーズに柔軟に対応～
10. ボイスドメインサービス社、ボイスドメイン・ブログサービスを2月1日より開始(2月)
～ 名前を話すだけで自分のブログに誘導できる～
11. ボイスドメインサービス社とぱど社が携帯電話向け音声入力検索サービスで業務提携(3月)
～ カテゴリー名と地域名を携帯電話に向かい話すだけで、ぱど社のエリア情報を獲得可能に～
12. アイティ・ニュース株式会社の「携帯 de ホームページ」への技術提供(3月)
13. 医療現場で実証された音声認識技術を活用ビジネスメール文章入力ソフト *AmiVoice® Ex BizMail*を発売開始(3月)

事業分野ごとの実績と今後

- 医療 2005年度の実績
- ・調剤薬局に本格導入。(3月末で累計800調剤薬局)
- ・電子カルテ向け音声認識ソフトなど診療所・病院向け。
(3月末で累計800施設)
- ・2005年度は医薬施設約680に導入、累計で1500施設以上に導入。
- ・ *AmiVoice® Ex*を大幅値下げで大幅拡販へ。(10月)
- ・医療メールパッケージを市場投入。(11月)



事業分野ごとの実績と今後

●医療 2006年度の動き

・主力4製品のさらなる拡販

- 放射線科ライセンス
- 調剤薬局ライセンス
- 診療所ライセンス
- 病院ライセンス

・新製品の投入

- 歯科向け電子カルテ
- 医薬品辞書
- Dialer for Medical

・サーバ開発

- 院内デジタルトランスクリプト運用 米国流の院外トランスクリプトサービス事業の中核システムを目指し開発

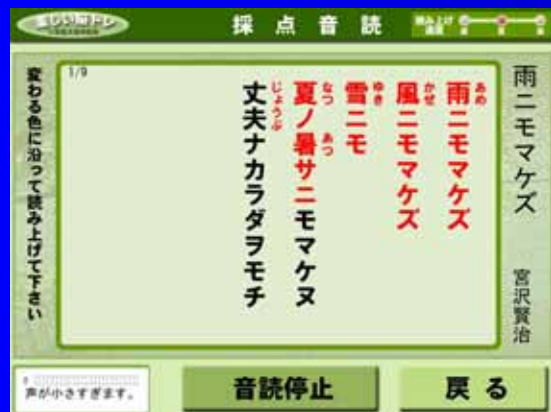
・サービス事業の開始

- 読影トランスクリプションサービス

事業分野ごとの実績と今後

●ゲーム/エンタテインメント/教育 2005年度の実績

- ・セットトップボックス向けのライセンス販売、受託開発が好調に推移
- ・ゲーム/エンターテインメント分野
 - オンラインゲーム開発、ロボット、ゲームソフトのライセンス販売など
- ・教育分野
 - 語学通信講座(アルク社)へライセンス販売
 - 大学・高校向け英語発音評定システムの販売(70施設に導入済み。内田洋行が代理店)
 - PCパッケージライセンス販売(IEインスティテュートなど)



「楽しい脳トレ」
中央情報システム



声にだして覚える英会話
(株)IE Institute

事業分野ごとの実績と今後

●ゲーム/エンタテインメント/教育 2006年度の動き

・セットトップボックス向けのライセンス販売、受託開発

・ゲーム/エンターテインメント分野

-次世代ゲームソフト・業務用ゲームのライセンス販売、受託開発など

-PCパッケージのライセンス販売、受託開発など

・教育分野

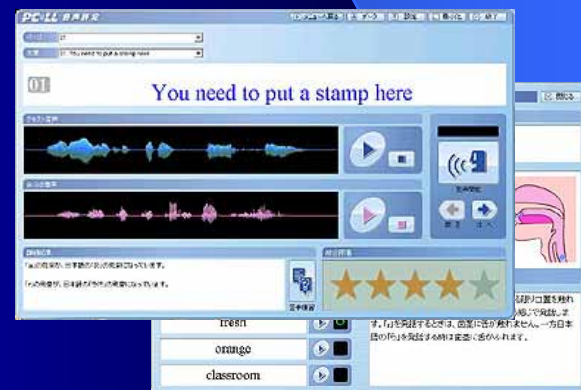
-大学・高校向け英語発音評定システムのバージョンアップを予定

-通信講座コンテンツの
ライセンス販売

-PCパッケージのライセンス販売、
受託開発など



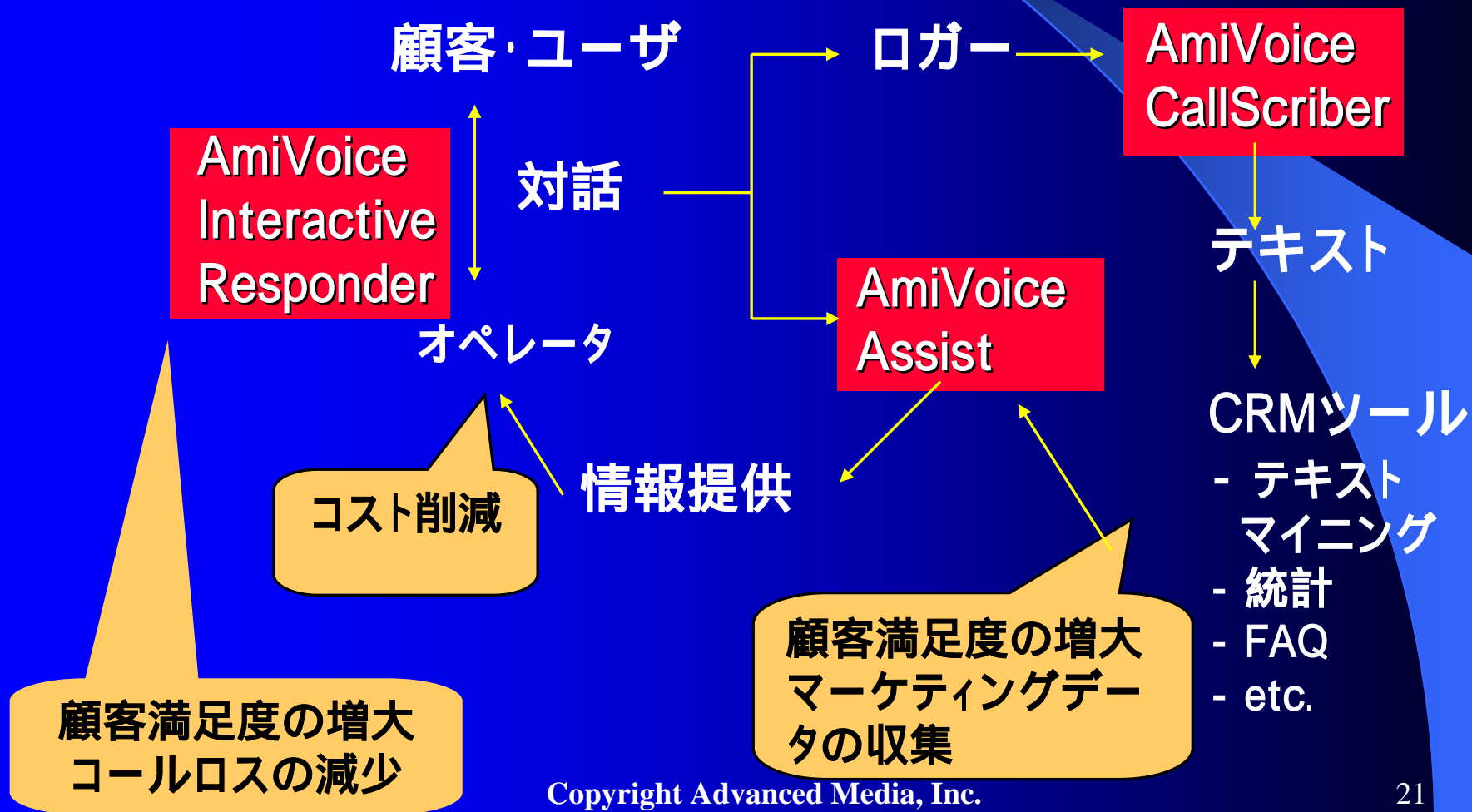
ヒアリング力完成
発音トレーニング
(株)アルク



AmiVoice CALL
-pronunciation-

事業分野ごとの実績と今後

- CTI(コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション) 2005年度の実績
 - ・金融・証券系に導入
 - ・運用に向けてコンサルテーション、システムインテグレーションの実施
 - ・MC2との協業により製品力を強化



事業分野ごとの実績と今後

●CTI(コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション) 2005年度の実績

客先名	導入製品	導入目的
金融A	AmiVoice CallScriber	先物取引のコンプライアンス
MC 2	AmiVoice CallScriber	アウトバウンド業務のコールスクリプトの分析
MC 2	AmiVoice Assist	NGワードチェック、 申し送り事項等の入力業務効率化
外務省	IVR (AIR)	大使館情報問合せ自動応答
富士通FIP	AmiVoice DesktopCallScriber、AmiVoice Assist	データマイニング、FAQ、 後処理業務効率化
損保Bコールセンタ	AmiVoice Assist	報告書入力効率化
損保Bコールセンタ	AmiVoice CallScriber: 導入準備のデータ収集開始	オペレータ初期対応の確認、 データマイニングに展開予定
教育機関	AmiVoice Assist	発話関連実験のデータ収集
証券C	AmiVoice CallScriber: データ収集用システム導入中	データマイニングに展開予定
証券D	AmiVoice Assist: 実務評価実験実施	後処理業務効率化、 NGワードチェック
金融E	AmiVoice CallScriber	コンプライアンス
製造F	AmiVoice CallScriber: 導入準備のデータ収集開始	マイニングによるお客様の声の分析

その他評価導入実績多数あり

●CTI(コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション) 2006年度の動き

金融・証券・損保などを中心に展開。

- ・AmiVoice CallScriber 前期にてデータ収集開始顧客を含め10～20社に導入予定
- ・AmiVoice IVR(AIR) (株価・為替)問合せ、一次受付振分など10～20社に導入予定
- ・AmiVoice Assist コンプライアンスの強化、オペレータ対応品質向上、効率化などで本格導入を目指す

事業分野ごとの実績と今後

●議事録 2005年度の実績

2006年4月現在

正式導入	導入年月日	導入目的	人口・議員数	
			人口(人)	議員数(人)
静岡県 沼津市議会	2004年6月	作業の効率化/委託費削減	21万	35
北海道 北海道議会	2005年6月	委託費削減	568万	110
静岡県 伊豆市議会	2005年6月	委託費削減	3万7千	26
埼玉県 戸田市議会	2005年6月	業務の効率化	11万6千	27
某市議会	2005年6月	業務の効率化	5万6千	20
北海道 深川市議会	2005年12月	作業の効率化/委託費削減	2万5千	20
茨城県 取手市議会	2006年3月	作業の効率化/委託費削減	11万	42
長崎県 南島原市議会	2006年6月	合併に伴い情報公開効率化	5万7千	

正式導入	導入年月日	導入目的	経営会議議事録作成	
			資本金	従業員
某医療系財団法人	2004年6月	講演録作成支援		
山口銀行	2005年1月	経営会議議事録作成支援	100億	2800名
某一部上場企業	2005年10月	経営会議議事録作成支援		
社団法人広島県医師会	2006年1月	経営会議議事録作成支援		
某企業	2006年3月	経営会議議事録作成支援	50億	約4,500名

事業分野ごとの実績と今後

●議事録 2006年度の動き

・議会向け議事録作成支援システム

国 機 関

一部試験稼働中、他機関へも順次導入予定

地方自治体

・民間企業向け議事録作成支援システム

一般会議議事録作成支援

商社、銀行、証券、IT関連企業などに対し、
開発、試験運用開始 次ページご参照

テレビキャプション

大手メーカーと連携し、各放送局・制作会社
へオファー中

大学講義字幕 & e-ラーニング

IBEと連携 名古屋大学法科大学院

放送局アーカイブシステムへ組込

民放各局

その他

通信キャリア

『テレビ会議字幕システム(試験開発)』

通信キャリア

『携帯メール作成システム(実証実験)』

事業分野ごとの実績と今後

●ビジネスソリューション 製品ごとの2005年度実績と2006年度の動き *AmiVoice Reporter*

営業報告データ、顧客とのやり取りの内容を音声・文字保存。
外勤営業社員等の外部からの業務報告書作成支援。

一次産業分野での導入

農業水産事業での音声認識入力分野が促進され今後水平展開へ。特に一次産業においては従事者のITに対してのハードルが高く、音声認識を利用する事によってカンタンに業務を行う事を可能に。

飼料給与事業 北海道浜中農協導入

狂牛病問題(BSE)の対策として牛に対しての飼料の給与情報や交配等の情報を音声で入力することにより安全な牛肉を供給するシステムで運用。

ユビキタス食の安全・安心システム 全日食チェーン商業協同組合連合会

農薬の散布量や農薬情報を携帯電話で簡単に入力記録するシステムで運用。また、消費者が店頭で購入した商品を音声で入力する事により生産情報(トレサビティー)を取得するシステムを導入。

[参考] <http://www.maff.go.jp/trace/saitakujigyou/gaiyou6.pdf>

<http://www.maff.go.jp/trace/saitakujigyou/image6.pdf>

東京都中央卸売市場 築地市場 海老卸売場

セリ人の横に立つ記帳者の音声を認識しデータ入力。

従来伝票起票に相当の時間を要していたが飛躍的に業務効率を向上。



事業分野ごとの実績と今後

平成17年沖縄電子商取引普及促進事業 育苗管理システム

ハウス栽培されている苗への生育状況及び農薬散布等の情報を音声でPDAに入力し育苗のトレサビリティを実現。

ビジネス分野での導入

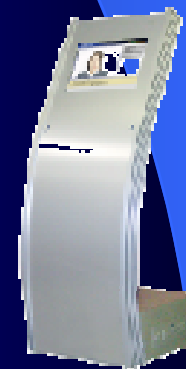
営業報告や日報作成において携帯電話で音声入力を行う事によって業務効率を飛躍的に向上させるソリューションとして携帯電話キャリアと共同で営業活動を行う。2006年度は製造業(FA分野)や流通業でのデータエントリー業務などでの運用が見込まれる。

AmiReception

受付業務の効率化をする音声自動応答装置。

1月にネットワーク監視機能・セキュリティーを強化しバージョンアップ

- ・2005年度の販売実績は約70セット
- ・2006年度は商業施設や公共施設などでの案内・情報検索への展開や受付ロボットとの連携・搭載を目指す。広告、情報配信ユニットとしての展開もトライ。



AmiVoice Dialer

内線/外線呼び出しで、電話番号を調べる手間をなくす。

- ・2005年度は通信機器の販売パートナーへの商材として商談が推進された
- ・2006年度、販売パートナーの主力製品として拡販予定

AmiVoice Ex BizMail

ビジネスメール、報告書作成のための音声入力パッケージソフト

- ・2006年3月よりリリース。2006年度から本格販売へ

●モバイルサービス 2005年度の実績

・サービス事業を本格的に開始

- ボイスドメインサービス社 (VDS)が携帯電話向け音声認識サービスを開始(2005年11月)
- VDS、検索連動型広告配信サービスでサーチテリア社と業務提携(2月)
- VDS、ボイスドメイン・ブログサービスを開始(2月)
- VDS、携帯電話向け音声入力検索サービスでばど社と業務提携(3月)

・サービスコンテンツの開発とアライアンス構築

- CPやキャリアに向けて各種サービスコンテンツ開発(フィールドテスト段階含む)
 - ・地図検索、乗り換え案内、ショートメール、営業日報など

●モバイルサービス 2006年度の動き

・上述のサービスコンテンツをアライアンス先と実サービス化

・サービスコンテンツの開発とアライアンス構築を活発化

- 収益モデルは受託開発とリベニューシェアの併存

・VDS事業を本格化

●セキュリティビジネス 声紋認証

・バイオメトリクスにおける音声認証の位置づけ

- セキュリティレベルでは虹彩、指紋、整脈、網膜に劣るものの、キーワード併用で高セキュリティを確保
- コストパフォーマンスは他のバイオメトリクスと比較し、圧倒的に高い
- 使いやすさは顔認証に次ぐユーザ受容度を確保

・音声認証の方法論

- キーワード認証方式 (Active Biometrics)
- フリーワード認証方式 (Static Biometrics)

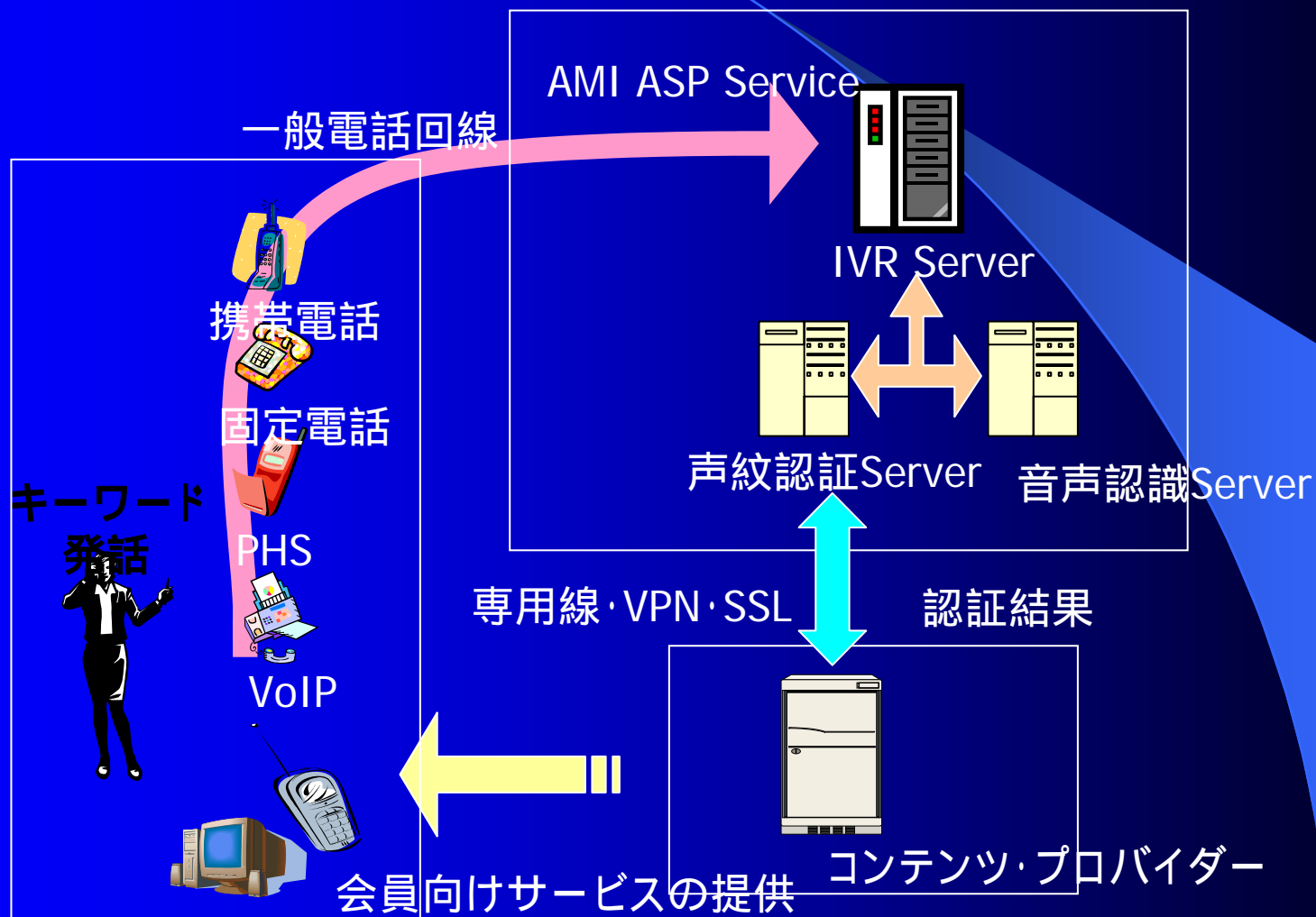
・音声認証ビジネスの開始

- 携帯電話向け声紋認証システム *AmiVoice® Mobile Verification* をリリース開始
- BBモバイル株式会社が認証セキュリティサービス「SyncLock Personal (シンクロック パーソナル)」において携帯電話を使った本人認証の一手段として利用 (2005年10月)
- 明和地所がマンションのエントランスに音声認証の開閉システムを導入 (2006年6月より)

事業分野ごとの実績と今後

●セキュリティービジネス 声紋認証

・携帯電話向け声紋認証システム *AmiVoice® Mobile Verification*をリリース、ASP型のサービス



2005年度の特記事項

●業績修正について

- ・人材の確保の遅れによるパートナー販売体制の立ち上げの遅れに伴うライセンス売上の計画未達
- ・販売管理費は新規事業立ち上げのための人件費増で減少せず、利益を圧迫
- ・連結はボイスドメインサービス社の売上高未達のため、利益が減少

●ボイスドメインサービス(VDS)について

- ・ボイスドメインサービス社は2005年11月28日より サービスを開始
- ・登録ワード数は2006年3月末に4000ワードを計画していたものの、目標に達せず。
- ・ボイスドメインサービスはDSRインストール可能端末の普及が遅れていることから、既存のレガシー携帯電話でも可能なダイアルアップ方式も提供し、全機種対応している
- ・DSRインストール可能なDSR端末が普及している海外市場(特に、中国)も視野に入れている
- ・PCやモバイル端末を想定し、目的別のVDSを提供する
 - 開発受託と単価の高いボイスドメインの販売

営業体制について

●既存の営業体制について

- ・医療分野を除き、パートナー営業体制が弱い。
- ・ソリューション営業の提案型営業が弱い。

●今後の営業体制について

- ・ビジネス分野・議事録分野において、有力パートナーの確保と育成。
- ・提案型営業力の強化。人材の確保と育成。
- ・ビジネス分野・コールセンタ分野はソリューションを提案し、受注案件と受注額の増大。

●パートナーの拡大について

- ・単価の高い音声認識ソリューションを開発し、パートナーに魅力ある商品を提供。
- ・パートナー数よりも有力パートナーとの契約を推進。
- ・製品ごとにパートナー戦略を綿密に策定。下期からは有力パートナーが本格稼働。

2006年度の重点施策

●既存事業

「高利益構造」へのシフト。ソリューションサポートで開発された製品をライセンス事業へ、あるいは、「売切り」からASPへ、更に、サービスビジネスへ

・ソリューションサポート事業

人材の獲得、提案型営業の強化、CRE (Customer Relationship Establishment)、単位営業ボリュームの向上、開発パートナーの育成

・ライセンス事業

既存製品の品質アップ、商品力の強化、高付加価値の商品開発、販売パートナーの育成

●新規事業

・サービス事業

モバイルサービス事業、サイバーテキストファクトリー

・多言語展開

英語、中国語、韓国語、タイ語

・セキュリティー事業

Biometrics Trusted Card System (BTC)

●モバイルサービス事業

・キャリア、コンテンツプロバイダなどとの事業提携

・弊社モバイルビジネスの成長イメージ

受託開発により企業ユーザへDSR端末(PC含む)およびDSR携帯電話の導入・普及、

他社のサービス事業への採用(一般コンシューマへ非DSR携帯電話にて)
(リベニューシェア→ストック型ビジネス)

弊社独自のサービス事業立ち上げ(「しゃべるとべんり」サイト)

2006年度の売上予想について

●単体売上高

- ・「医療」、「エンターテインメント&エデュケーション」、「ビジネス」、「議事録」、「コールセンター」の各事業分野において、売上増加(約30%)を目論み、営業目標を設定。

●単体利益

- ・販売管理費の増加は人件費増(約20名増加)を中心としたもので、売上の伸びが販管費の増加を吸収する予定。

●連結売上高

- ・2006年度よりMC2の売上高が12ヶ月フルに寄与。ボイスドメインサービスも下期より売上高増加の予定。

●連結利益

- ・連結調整勘定が発生するものの、単体及びMC2は利益を計上し、経常利益は黒字になるが、MC2の単体利益に伴う税負担増もあり、当期利益は赤字を計上する予定。

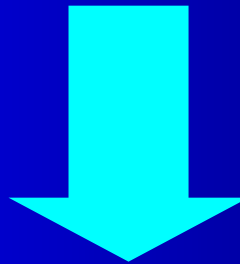
参考資料 当社の事業概要について

会社概要

- 会社名 株式会社アドバンスト・メディア
- 設立 1997年12月
- 資本金 33億6,887万円(2006年5月1日現在)
- 所在地 〒170-6048
東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 48F
- 電話 03-5958-1031(代表)
- 業務提携先 Multimodal Technologies, Inc.(米国)
- 子会社 (株)MC2、(株)ボイスドメインサービス
- 事業内容
 - ・アミボイスを組み込んだ音声認識ソリューションの企画・設計・開発を行う「ソリューションサポート事業」
 - ・「ソリューションサポート事業」で掘り起こされた市場のニーズに適合するパッケージ商品をライセンスとして提供する「ライセンス事業」
 - ・当社自身がアミボイスを使い、企業内のユーザや一般消費者へサービス提供を行う「サービス事業」
- 代表者 代表取締役 鈴木 清幸
- 主要株主 鈴木 清幸、トヨタ自動車、富士通など
- 詳細は<http://www.advanced-media.co.jp/>をご参照ください。

「しゃべりがみえる」ことによる
新たな価値の創造を提案・実現
“いつでも、どこでも、だれでも”が
「しゃべりがみえる」に特化

「便利さ」「有難さ」
を享受できる仕組
みを提供



音声認識エンジン
AmiVoice

実用的に、ビジネスや日々の生活に密着した
多種多様なサービスへと活用

ビジネス展開構想

一般領域

一般領域の企業内ユーザ
(主にエンドユーザ)

第二段階

一般領域の一般消費者
(エンドユーザ)

最終段階

方向性

第一段階

特定領域の企業ユーザ
(エンドユーザおよび非エンドユーザ)

第二段階

専門特化領域の一般消費者
(エンドユーザ)

特定領域

企業ユーザ

一般消費者

差別化のポイント

他社の市場化

- 事前トレーニング要
- 一般言語モデル
- 特化型音響モデル

低い認識率、
事前トレーニングが面倒

使われない!!

一般消費者の利用:
ゲーム・エンタテインメント、
携帯電話

マス・マーケットへの拡がり

AMIの市場化

「使える」
「便利」
「ありがたい」

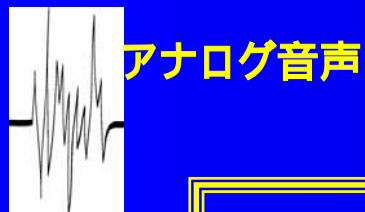
企業内ユーザの利用:
医療、コールセンタ、
ビジネスソリューション等

- 事前トレーニング不要
- 領域特化言語モデル
- 一般音響モデル

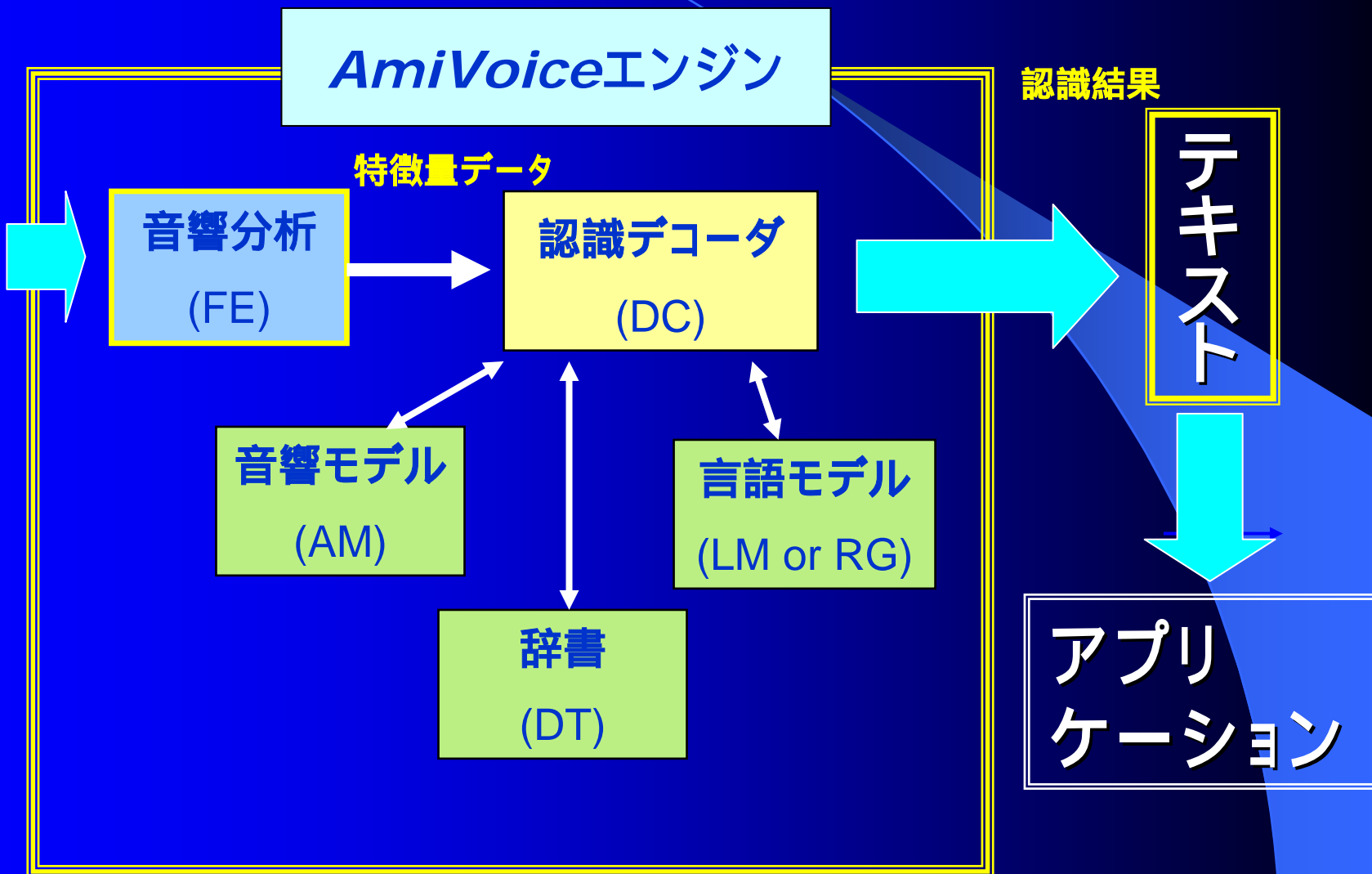
話者特定

不特定話者

AmiVoiceエンジン構造

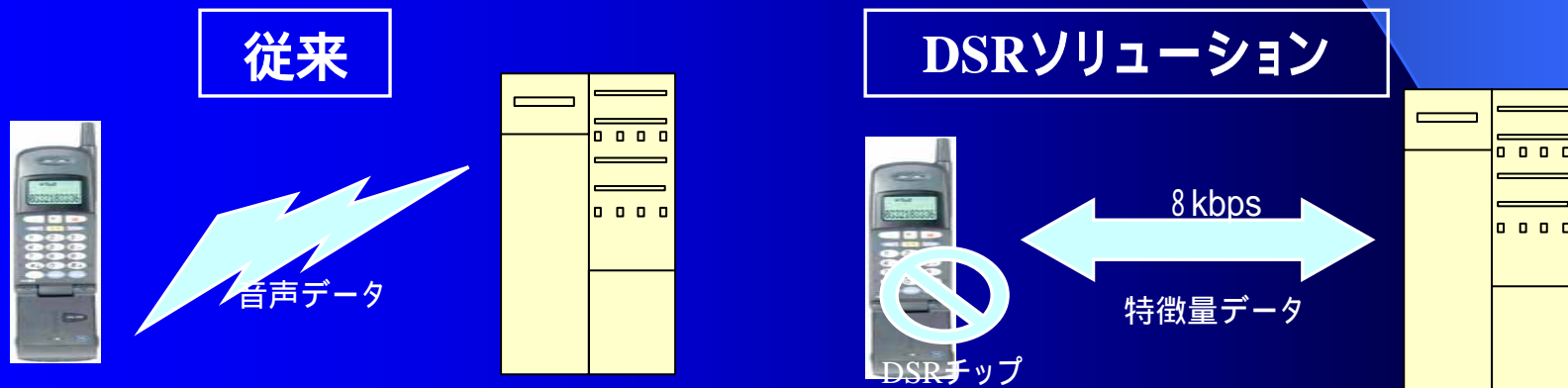


音声



・DSRによる音声データのハイクオリティ化

DSR (Distributed Speech Recognition)ソリューションとは、デバイスとサーバーに分割した音声認識システムである。デバイス側で入力された音声は、その場で「特徴量データ」に変換され、それがパケット送信される際に、従来のような圧縮による劣化がなく、ノイズが混入する余地もない。さらに、従来よりも1/30以下に圧縮された軽いデータとして送信される。



電話機から音声データが送信される際、圧縮により音声データが劣化、サーバーにおける音声認識が難しくなり、精度が悪化する。

デバイス側で音声データの劣化なしで音声認識の前処理が完了するため、高精度の音声認識が実現できる、しかも、伝送量は小さい。

音声認識技術のロードマップ

1G: 単語認識 (1960 ~)

2G: LVCSR (1991 ~)

3G: Robust (2001 ~)

4G: Multi-Modality (2007 ~)

5G: Understanding (2011 ~)

世代(G)のポイント

- 3G: 不特定話者性、スピードの変化、抑揚、アクセントの違いに対応
- 4G: 2-3m離れても認識可能
- 5G: 自然対話、知的推論機能

実用化の始まり

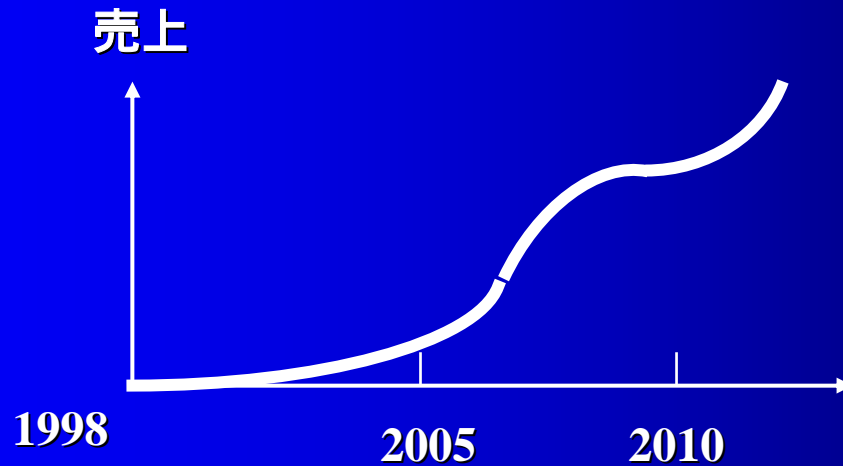
普及

アタリマエの世界

長期展望

● 事業の進展

- 開発フェーズ (1997 ~) ソリューションサポート
- 展開フェーズI (2003 ~) パッケージソリューション付加
- **展開フェーズII (2005 ~)** **サービスビジネス付加**
- 展開フェーズIII プラットフォーム化/グローバル化
- 拡大フェーズ HCIライセンシング(全世界)



ありがとうございました